

伊勢観光振興基本計画推進委員会
令和2年度 第1回会議 議事録要旨

日 時：令和2年11月30日（月）14:00～16:00

場 所：伊勢役所本庁舎 東館 4-3 会議室

出席者：【委 員】 富本、三浦、中本、竹内、音羽、中村(洋)、三村、酒井、小崎、奥田、
前田、山本(武)、山本(直)、高橋 [敬称略]
【事務局】 須崎、小林、富岡、東端、畑、柘植

1. あいさつ（産業観光部長 須崎）

2. 出席報告及び新委員紹介

委員 17 名のうち出席者 14 名で、過半数が出席していることから、「伊勢観光振興基本計画推進委員会規則」第 4 条第 2 項の規定により、本会議が有効に成立していることを確認。また、伊勢まちづくり株式会社より、4 月 1 日の人事異動で中村 聖委員に代わって中本龍二委員が就任されたため、ご紹介。

3. 議事

① 伊勢観光振興基本計画の取組の検証について

- 資料①の概要を事務局から説明し、意見は特になし。

② 新型コロナウイルス感染症の影響について

- 事務局より資料②に基づき説明。
 - ・ 3 月頃から影響が出始め、4・5 月は同月比過去最低を記録したものの、6 月以降回復し、9 月の 4 連休及び東京発着の旅行が GoTo キャンペーン対象となったこと等により前年比 70%程まで参拝者数が回復。
 - ・ 11 月に入って少し不安要素が出てきたが、今後は感染症対策と経済対策を両立できるよう努めていく。
 - ・ 消費額推計は、R31/R1 の観光客実態調査結果に基づく観光消費額（推計）を根拠に算出。しかし、今年の観光客調査結果では消費動向が変わり、各期速報で一人当たり観光消費額は昨年よりも減額している。

⇒ 1 ページ目「観光消費推計額 H31/R1 10 月分及び合計額」に誤りあり。

指摘部分を修正したものを後日再配布する。

③ 令和2年度の主な取組について

- 資料③-1、資料③-2、資料③-3 について事務局から説明し、意見は特になし

④ その他（意見交換ほか）【別紙参照 2～6 ページ目】

4. 事務連絡

（以上）

3. 議事

④ その他（意見交換ほか）

- 補助金や融資相談の件数が昨年実績を超えており、特に飲食店や物産店が打撃を受けている。GoTo など様々な支援策が終わった後、大きな影響が出ると思うので、市や県の支援策を継続する方向で考えてもらいたい。
- 新型コロナの影響で、観光案内人の実績で前年比 65%。今後は新たなビジネスモデルを模索しながら、国の補助事業等を活用して、事業を進める。
- 製造関係で中国から部品が来なかったり、塾も休講したり、あらゆる業種で影響が出ている。イベントも中止になり、代わりに支援策の紹介・申請補助をしている。今後はテイクアウト等へ続く新たなビジネスモデルを考える必要がある。
- バス乗車実績は神宮参拝者数とほぼ比例。利用者増より感染拡大防止が第一であり、車両を全て抗菌仕様に、消毒液やマスクを準備し、受入対策を整えている。
- 累計実績は、11月時点で特急（全体）が前年比 60%（伊勢志摩地域は 65%）だが、直近では悪化傾向にある。伊勢志摩地域のホテルでは、10～11月に掛けて、GoTo の恩恵で前年比 100%超のところもある。この差がマイカー利用に流れていると分析している。対応策として全車両抗菌コートを施して宣伝したり、ツアー業者等と連携したりしている。名阪や伊勢志摩方面は少し回復が早かったが、再拡大で元に戻ってしまった。
- 地域単位でのコロナ対策の取組として「伊勢志摩スタンダード」を推進している。約 240 店舗の協力を得ている。「考えられるコロナ対策は全てやっても心配。」という声がある。地域でのさらなるコロナ対策として、尾鷲ヒノキのエキスをを使用したアルコールスプレーボトルを作成し、12月4日から来訪者へ配布する。20,000 本配布予定。LINE 公式アカウントを開設し、「ともだち」になった方を対象としている。今後、LINE でタイムリーな情報や災害情報を発信するなどの活用を図る予定。また、セグメントに分けたマーケティングも出来るので、デジタルマーケティングとしても活用する。

伊勢志摩地域全体の修学旅行宿泊者数は、前年度比約 2 倍になる見込み。

また、おはらい町等で修学旅行生が目立って多く感じるが、修学旅行の増に加え、一般団体やインバウンドが減少したことも要因。

県内・近隣地域に加え、これまで来ていなかった地域の学校が多く、客層の半分程度が入れ替わった状況。来年度以降も新規修学旅行生の取込を継続して取り組む。

1月に神社関係の団体客が来るので、伊勢では 1～3月に掛けて繁忙期という認識だが、鳥羽・志摩では 2月、3月は宿泊者数が減る閑散期。

今後は、公共交通利用にフォーカスした取組を行っていく予定。伊勢の中心市街地（伊勢市駅周辺）への訪問者増は、前回遷宮時の公共交通利用促進の取組結

果であり、意識して公共交通の利用促進をしないと街の賑わいは戻らない。

- 年末年始は黙っていても参拝客が来るので（感染者が出ないか）不安。飲食を伴うものは全て中止し、従来より緊縮。

4～6月には報道の受け入れも控えていたが、本木雅弘氏の（JRのひさびさ旅）CMがうまくいった。神宮をどんどん紹介してもらいたいと考えているが、バーチャル参拝などは、「来て・見て・感じて」ほしいため受け入れられない。バリアフリーの取組など、頑張ってお参りにいただくということであれば協力するが、バーチャルだともう来なくていいとなる。今後も出来る限り地域振興のために連携して色々なことをやっていきたい。

コロナ禍では県内でも宿泊を伴いそうな遠方地域（北勢・東紀州）をターゲットに取り組んでもらいたい。ゆっくりと伊勢に滞在してもらえるとということで、JRや近鉄、三重交通に協力してもらって、伊勢周辺に泊まってもらうパックを考えてはどうか。来年は参拝者の動向調査の実施を考えている。

- 地元をターゲットにするという意見に賛同。今こそ地元固有の価値を見直すべきであり、転換期である。数字に惑わされず、地元を目を向けてもらいたい。SDGsを神宮はやっているということを知って欲しい。地元の方に地元ホテルに泊まってもらい、おもてなしとは何かを知ってもらった上で改めて地元の価値を考えてもらう。計画もその視点で見直すべき。

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、2月末～5月まで閉鎖した。特におひなさま巡りで年間入館者の1/3が訪れる3月に休館したため、入館料が前年比35%ほどまで落ち込んだ。

夫婦岩からの散策の延長でマスクをせずに来館する。最近入館制限を解いたばかりだが、再度入館制限を掛ける予定。

最近では、婚礼写真の撮影や、地元イラストレーターの展示会にファンの来館で入館者数が増えた。今後、アーティストの発表の場としての施設活用やキャッシュレス化を進めたい。また、地元の人にも賓日館にもっと来てもらえるよう、県内版GoToキャンペーンのような取組を進めてもらいたい。

- 外宮参道について、4～5月は全く人が来ず。6月に増えて、7～8月は減ったが、9月から戻り始め、10月で前年比90%程度となった。11月は前年同様まで戻ったと感じたが、実績は70%程。戻り始めは若い人が多かったが、最近50～60代も増えた。昼に外宮から駅方面に向かって移動する人が増えた。車で来た人々と思われる。目的地（外宮）からすぐ帰るのではなく、少し「店を見てみよう」という安心感が出てきたか。

GoToクーポンは、市内では使える店が少ない。他の観光地ではもっと多いのに、伊勢は使えるところが少ないと言われるのは課題。今後は非接触・キャッシュレスが、MaaS等も含め複合的に進んでいくだろう。

神宮は環境面での持続可能な実践を行ってきた。伊勢は本物の SDGs がある街。他市より中身がしっかりした取り組みを行ってほしい。本気の SDGs を実践することは、観光にも力になる。

市の感染症対策事業は、地域としてコロナ対策に取り組んでいるというメッセージにもなり、安心できる。また、ミストもおもてなしとしてよかった。

- SDGs は観光と相性がよい。伊勢の観光まちづくりは、既に SDGs の取組である。教育でも小・中・高・大と SDGs をやっているが、どれがどの項目に当てはまるか考えると、伊勢は SDGs の街だと認識できると思う。
- 神宮がある伊勢は SDGs の聖地。神宮とともに、伊勢の人も SDGs な生活をしてきた。既にやっていることが SDGs なので、見える化していくべき。それをシンボル化することによって皆が誇りに思うし、理解していく。
- 以前から SDGs に取り組んでおり、講演もしている。先日、小学生にその話をしたが、多くの意見が出た。国連が推奨しているものだが、非常に浸透性がある。
- 企業でも取り組んでいるところが増えてきて、常識になりつつある。
- 全項目に取り組む必要はなく、ピックアップしてやればよい。欧州では SDGs に取り組んでいない企業は、社会的に責任を果たしていないと烙印を押され、取引が出来なくなってきた。この流れは日本にも入ってくる。伊勢は本物をやるのが大事。
- 観光客実態調査では 50 歳代が多いと出ているが、現場では若年層が多いように感じる。おはらい町は 5 月にほぼ人が来ず、7~8 月に少し動き始めたが、癒しを求めて来る方が多く、旅行感を出したくないからか、土産を買う人も少なかった。9 月 4 連休あたりに 10 月から東京が GoTo 対象になると報道が出ると解禁されたように増え始め、10 月からは皆クーポンを持って来るようになった。クーポンは 2 日目が多く、初日分は 2 割程。おはらい町で使えるように前泊してくるなど、うまくプランを立ててくるが、電子が使えるところは少なく、探している方が多い。

飲食店は、従来の 5~6 割程度に席数を抑えており、待ちの行列ができていたとしても、元に戻ったとは言えない状況。大きい店は席数を増やそうとしているが、小さい店はそのままで営業せざるを得ない。

修学旅行生が多い時は、若い子向けの品揃えにするなど工夫している。みやげ物について、県内の方に買ってもらえるよう、家族等身近な人向けのものを考えていく。

人出は大体 70~80%程度。人が来て不安、来なくても不安。とにかく、おはらい町で感染者を出さないことが重要。これからはスタッフの対策を考えていく。毎年初詣は密集状態なのでどうやって乗り越えるか。国は自粛を言っているが、

観光に来る方は気を休めに来るので、ノーマスクとなるなど感染症対策意識も緩む。

使用される GoTo クーポンは、意外に和歌山県発行が多い。マイカー利用が多く高速道路が整備されて来やすくなったことが影響しているか。クーポンから、今まで見えなかったことが分かってきた。今はまさに転換期、自分たちもそれに対応していく必要がある。

- 宿泊しても旅行へ行ったことを知られないよう、みやげを買わない方が多い。
- 10月以降みやげを買う人が増えた。周囲にみやげ物を買える店が多い宿泊施設は大変と聞いている。独立した宿泊施設は売上は好調だと聞いている。
- 鳥羽や志摩では、宿泊施設の売店で店頭在庫がなくなったこともあると聞いている。
- 7～8月は旅行がばれるのを危惧して、みやげを買う人が少なかったのは事実。
- GoTo キャンペーンが、「旅行に行ってもよい」というムードのきっかけになった。
- 今は GoTo があるのでよいが、なくなった反動で消費が落ち込むのが怖い。
- 飲食では、高級店で客層が変わってきたと聞いている。高級なものを頼むのは GoTo 利用客が多く、普段よりいいものを頼む。それで伊勢の良いものを食べてもらって、リピートしてもらうきっかけになればよい。
- 若い人が増えて、買うものが変わってきたかという点においては、人・物による。GoTo キャンペーンを機会に、伊勢の人が鳥羽・志摩に泊まるようになった。
- GoTo で、全国的に質の悪い客が増えたとの情報が宿泊施設間で共有されている。キャンペーンが始まった時に一切説明がなく、お互い訳が分からないため、35%割引の対応に苦慮した。他のクーポンなども併用できるため、近隣からの宿泊利用も増えた。市内では小俣の方が多い。本音を言えば、満足な説明もなく始まったキャンペーンは面倒でやめたいが、やっていないとクレームになるので仕方なくやっている。
- 消費者が GoTo に甘え過ぎてしまう状況が怖い。子供が小遣いをもらって、使い切るために買い物をしている状況に近い。地域共通クーポンは、日付を確認するなど手間も掛かるが、GoTo がないと厳しい。なければ現状の 50%程しか売れないのではないか。
- GoTo のマップ表示が非常に見づらく、使いづらいのも問題。
- チェックインしないと本来クーポンはもらえないが、チェックイン前にクーポンが欲しいと求められる。今後は行政の補助金等の情報を共有して活用していく。

- クーポンは掛売と同じで、入金まで紙で 20 日以上、電子で 2 週間程かかる。キャッシュレス等も合わせて売上の 50%程で、小事業者は苦しい。かと言って、いきなり GoTo をやめられると怖い。段階的に縮小していくしかないのでは。
- 宿泊施設はクーポンを発行する側であるが、利用していただくことも可能なので、どう対応するか検討した。しかし、色々と作業が煩雑であることから、(私のところでは) クーポンの利用はお断りさせていただいている。
- 半分程度のタクシー会社でクーポンが使えるが、あまり知られていない。県内北勢に比べて伊勢志摩は使用率が高い。実績は神宮参拝者数に比例しており、伸びてきたところへ第 3 波で下がって、今月は前年比 60%程度。
最近では夜と朝だけでなく昼もタクシー不足。待機場所を回ったが、内宮周辺で従来の半分程度。数少ないタクシーが稼働率のいい内宮に行き、駅に配車が少なくなっている。経営が厳しく、年末まで雇用調整助成金を利用する会社が多く、ドライバーが出勤していない。助成金が継続になれば、今と同様の状況が続き、配車は増えない。公共交通機関の利用が減って移動・交通関係の満足度があがったというなら、死活問題。マイカー利用が増えている状況が変わらないと改善しない。
- 大学は、授業よりも学生のバイト先がなくなるのが問題。学生へ給付金の紹介などを行っているが、留学生は真っ先に切られる傾向。あとは就職で困っている。伊勢志摩地域の宿泊施設からは比較的求人がある。
- 観光客実態調査の方法は、例年と変更していない。移動・交通関係の満足度は危惧されているとおり。ただ、駐車場が比較的空いてたため、スムーズに入庫できたなどの要因が考えられる。例年、年間調査結果のクロス集計を行っているので、公共交通機関を利用した方の満足度の結果も改めて示す。

(以上)